

# 社会保険直方病院レター

第22号 平成28年9月

## 内科新任医師 着任のご挨拶



内科部長 松本 真裕

平成26年度まで4年間当院に勤務し、昨年度社会保険稲築病院に異動しましたが、1年で何故かまた直方に戻って参りました。以前と同様に消化管疾患を中心にお役に立てればと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

当院のことについてはこれまで色々なところでご紹介させて頂きましたので、今回はプライベートなこと、九州岩手県人会(以下県人会)について書きたいと思います。

平成23年の直方鞍手医報で私と岩手県の繋がりについて書かせて頂きましたが、以下おさらいです。

父の仕事の都合で岩手県盛岡市に7歳まで過ごす。10年程前から県人会に参加。その縁で平成20年、岩手県庁の方に依頼され、希望王国いわて文化大使(現在は希望郷いわて文化大使)となり今に至る。

県人会は、九州大学病院前の「チャグチャグ馬っ子」という東北の料理を食べさせてくれるお店で毎月開かれていましたが、同店が移転(現在は戸畑に近い小倉、両国橋付近)したため現在は年4回福岡市内の別の店で行われています。最近は祇園町にある女将さんが岩手県出身の「ぼくらの浪漫食堂」で開かれることが多くなりました。私も含めて純粋に岩手県人でない方も参加されます。岩手県と全く関係のない、会員の友人というだけで参加する人もたまにいます。また秋田や福島といった他の東北の県人会の方も参加されることがあり、参加資格に関しては割とゆるい感じです。20人程集まって飲み食いし、情報交換しています。会議をして議題を検討、なんてことはしません。親睦メインの会です。興味があって参加ご希望の方はご連絡下さい。

県人会全体で何かをする、ということはないのですが有志の人達が色々な活動をし

ています。福岡市天神の警固神社や室見川河畔公園での芋煮会への出店もその一つです。元は福島県人会の方が震災復興支援のため始めた会で、東北5県(青森以外)の県人会の方々が出店します。私は店には出ませんが、食べる方で貢献しています。また天神にある「みちのく夢プラザ」は毎年博多どんたくのパレードに参加していますが、それに出る人もいます。私もここ数年、三陸復興の旗を持って歩いています。3年前は、あまちゃんの格好をさせられました。

患者さんは別として普段医療職の人としか話さないことが多いのですが、県人会には会社の社長から主婦まで様々な人がいて、そうした人たちと仕事を離れて話ができることは貴重なことだと思います。県人会がこれからも続いて発展していくように、色々やっっていこうと考えています。



## 内科部長 河邊 毅

このたび社会保険直方病院内科に着任いたしました河邊毅と申します。平成6年に九州大学医学部を卒業後、九州大学第三内科に入局いたしました。2年間の研修医、4年間の大学院を経た後、第三内科消化器研究室に所属し、原三信病院、小倉医療センター、福岡東医療センター、別府医療センター、九州労災病院、福岡逋信病院勤務を経て現職場にやって参りました。

学生時代は、医学部バレーボール部に所属しておりました。バレーボールを大学より始めたことと、身長の高さもあってか、バレーボール部で選手として活躍することはありませんでした。しかし、バレーボールの練習を通して、若い時期に十分運動ができたこと、いろんな先輩・後輩と知り合えたことが、現在の生活や仕事の基礎として役立っており、学生時代に部活動をしていて良かったと考えております。ただ、最近はあまり運動する機会がなく、若いころと比較するとかなり体の動きが鈍くなっていると感じており、痛切に反省している今日この頃であります。

私の専門であります、消化管を中心とした診療をしております。上下部の内視鏡検査や透視、内視鏡治療等を行っております。また、一般内科も担当しております。当院に着任して5カ月が過ぎようとしておりますが、当院で勤務して感じるもののひとつに、非常に高齢の患者様が多いということがあります。高齢化社会の現れとも考えられますが、それだけ体力、免疫力の低下された方が多いということであり、癌にかかる方も多いものと考えられます。そのため、これら的高齢者の方々の治療は、一般成人と比較すると、一筋縄ではいかず、困難を極めることも多いものと考えられます。そこで、高齢化社会が進む中、これら的高齢者の方々の治療や介護、そして、直方の地域医療に役立てるよう、微力ではありますが、がんばりたいと存じますので、何卒宜しく願い申し上げます。



内科医長 園田 浩一郎

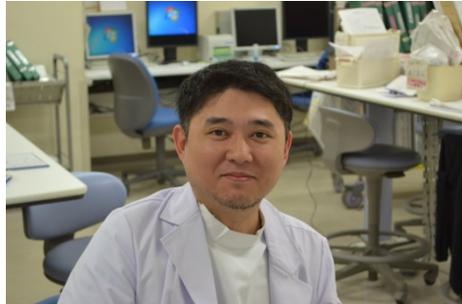
このたび社会保険直方病院内科に着任いたしました園田浩一郎と申します。

平成15年に九州大学を卒業後、九州大学第三内科内分泌研究室に入局、研修医、大学院を経て、稲築病院で4年、JCHO九州病院（旧厚生年金病院）で3年勤務し、この度平成28年4月より直方病院内科勤務となりました。主に内分泌疾患、糖尿病を専門領域としています。稲築病院では主に老人医療に携わり、高齢化社会に伴い患者さんの平均高齢が上がっている昨今ですので、非常によい経験をさせていただきました。JCHO九州病院に転勤後は仕事が一転し、糖尿病はケトアシドーシスから教育入院まで幅広く、内分泌疾患は甲状腺クリーゼの急患や副腎腫瘍性疾患等多岐にわたり診療させていただきます、こちらも非常に貴重な経験を積ませて頂きました。

直方病院ではこれらの経験を生かし、総合内科診療及び専門分野の診療に当たっていく所存でございます。

糖尿病については急性期重症例から軽症例まで受け入れは可能です。糖尿病は発症時（又は発覚時）初期の介入が重要ですので軽症の方でも、教育入院を希望される場合は特に、丸投げという形で構いませんので御紹介下さい。または、治療に難渋しているといった患者さんも遠慮なくご紹介頂いて構いません。糖尿病研究室出身の南先生も勤務していますので診療体制は整っております。

内分泌疾患は糖尿病と比較するとやや稀ですが、忘れたところに遭遇するものです。内分泌疾患の中でも比較的多い甲状腺疾患は、橋本病に代表される低下症とバセドウ病に代表される亢進症、それと腫瘍があります。低下症は体のむくみ、倦怠感、CK上昇、心不全などから見つかることが多い印象で、亢進症は動悸・頻脈、発汗等から見つかることが多い印象です。スクリーニング（TSH、FT4）して頂いて異常がありましたらご紹介をご検討頂ければ幸いです。ほかに、副腎腫瘍及び副腎疾患、副甲状腺疾患（Ca異常）、下垂体疾患等も大方の診断を付けるところまでは可能ですので、大病院に紹介するか迷う症例などは当院でワンクッションおいてもいいかと思えます。遠慮なくご紹介頂ければと思います。



## 内科医員 原田 林

このたび社会保険直方病院肝臓内科に着任致しました原田 林(しげる)と申します。字は異なりますが私も名前は院長と同じしげるでありまして院長と2人で当院の肝臓内科として診療を行っております。すでに多くの患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。

平成18年に福岡大学医学部を卒業後、松山赤十字病院、九州大学病院で研修医を過ごし、3年目より九州大学3内科肝臓研究室に籍を持ち九州がんセンター、福岡市民病院、中津市民病院へ赴任し平成25年より3年間九州大学病院で医員として主に劇症肝炎、重症肝炎症例の治療に従事しておりました。Generalな内科医としての診療は3年ぶりですが福岡、中津市民病院では一般内科として日々勤務しておりました。

現在引っ越しておらず九大病院近辺の吉塚から車で通勤している日々です。週末は当院は当直制ですので大学時代に比べやや時間はできましたのでもっばらこれまで行きたくても行けなかった福岡の新規ラーメン店巡りを行っております。福岡ラーメン界は以前までの元祖長浜ラーメン、一風堂、一蘭、秀ちゃんラーメンなどの有名人気店に加えて一双、一幸舎などの本格派新鋭ラーメン店が人気を博しており、これに豚骨+エビ、鳥白湯、牛骨などの新たなテイストのラーメンが散見され担担麺まで含めますとなかなか食べ尽くすことは困難ですが地道に食べていこうと考えております。

肝臓治療も前述の博多ラーメン以上に近年は皆様ご承知のことと思われませんが、特にC型肝炎治療につきまして革新的な経口治療薬が相次いで登場しており、1型治療薬のハーボニー錠などはほぼ副作用なく3か月の1錠内服で100%のウィルス消失率を治験でも、そして当院のこれまでの症例でも得られており正に画期的新薬と思われれます。しかしながらこのような薬剤も強度腎障害や不整脈症例には注意が必要などと注意点があり、また、ウィルス消失後も発がん率は0にはならないため引き続き定期的なエコー検査は必須であることなどの気をつけるべき事柄もありますのでC型肝炎のみならず肝胆道系疾患の疑いや疑問点などありましたら気軽にご連絡、ご紹介いただけますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



内科医員 南 陽平

このたび社会保険直方病院内科に着任しました南陽平と申します。大分大学を卒業し、北九州市の健和会大手町病院で2年間初期研修を終了後に九州大学第3内科に入局しました。同年より国立病院機構小倉医療センターで後期研修を行い、翌年より九州大学第3内科糖尿病研究室にて大学院生として4年間研究と臨床を経験した後に、済生会福岡総合病院糖尿病内分泌内科、飯塚病院内分泌糖尿病内科を経て、本年より社会保険直方病院内科に着任しております（専門：糖尿病・内分泌、資格：内科認定医、糖尿病専門医、所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会）。

社会保険直方病院で働き始めて一番感じておりますことは、ご高齢の患者様が特に多いことです。日本では人口の高齢化が進み、それに伴い糖尿病患者の平均年齢も上昇しておりますが、特にここ直方地域は、今後の日本の糖尿病患者層を一足早く反映している地域ではないかと感じております。

日本の2型糖尿病患者の血糖コントロールは各種薬剤の登場もあり、平均HbA1c7%未満になるまでに改善をしている状況です（一般社団法人糖尿病データマネジメント研究会ホームページより）。しかし血糖の改善に伴い、リスク増加が懸念されるものに低血糖症があります。低血糖症はかえって死亡率を上昇させる可能性や（ACCORD試験、VADT試験）、認知症発症率の増加も報告されております（Whitmer et al., JAMA 2009）。そういった状況も踏まえ、2016年の日本糖尿病総会では、高齢者糖尿病の血糖コントロール指標として平均HbA1cの下限値が設定されました。

この直方地区において高齢者の糖尿病治療を中心に医療を行うにあたり、単に血糖を改善させるのではなく、患者様のQOLの維持と健康寿命の確保のために血糖コントロールの質を考えた治療を行っていきたいと考えております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



一般財団法人 福岡県社会保険医療協会

**社会保険直方病院**

Social Insurance Nogata Hospital

〒822-0024 福岡県直方市須崎町1番1号

TEL 0949-22-1215 FAX 0949-24-1302

<http://www.nogata-hp.jp>